

# 大東民報

## 議会版

日本共産党  
大東市議会議員団  
大東市谷川1丁目1-1  
TEL072-871-5588



市議員 ことぶき 勉 (つとむ)



市議員 とよあし 勝子 (かつこ)



市議員 とびた 茂 (しげる)

### 法律相談

8月4日(月)  
7時~  
大東市民会館  
※要予約  
871-5588まで

## 今こそいのちと地域を守る地方自治を！—安かったらええんか 自治体の仕事 第50回自治体学校 in 大阪

7月25日から27日開催。  
宮本憲一氏(元滋賀大学学長・元自治体問題研究所理事長)は、

第一部の記念講演で、1970年代後半からはじまった新自由主義の潮流はいま、世界的な貧富の格差、地球環境の危機、そしてイラク戦争の失敗の中でゆきづまり、転換のきざしが見え始めています。いまこの状況を変えるのは、憲法体制を足もとから確立する自治体の建設以外にないでしょう。

「憲法をくらしの中に生かす」革新自治体の建設に寄与してきたこと。「さいきんの構造改革による自治の破壊に抗して—住民の自治体内発的な発展を進めてきたこと。などが語られました。

結びにあたり、「これまでの伝統の上に立って、日本の地方自治を発展させ、地球環境の維持可能な社会のために、平和、経済的公正と民主主義の自治体建設への挑戦をしようではありませんか」と訴えておられました。

共産党議員団から古崎・豊芦が参加しました。



## 歴史と景観をまもる大阪・平野郷のまちづくり

### 「住民が主体、行政参加のまちづくり」

(現地分科会に参加して) わがまち大東でも生かしたいですね！



敷地32畳、全興寺の集会所。2階は32畳の敷地。おじいさんなど伝承遊びの場。1〜5階は賑わいの場となっているそうです。

現地説明会の当日はうだるような暑さでした。

「平野の町づくりを考える会」の松村さん(79才)や地元ボランティアの方の案内で、歴史・景観・文化を大切にしたい町づくりとその想いが熱く伝わった一日となりました。

平野郷におけるまちづくりは、1980年に起きた旧南海平野線の平野駅舎の保存運動がきっかけです。木造駅舎を残すことは出来ませんでした

が、住民の葬式が行われ、片岡仁座衛門さんが最後の電車に乗るといわれて多くのマスコミが来ましたが、住民の葬式の方が面白いと取材を受けて「平野は遊び心がある」と報道されました。「平野の町を考える会」が結成されました。

住民主体のまちづくり運動が広まった時期に、

建築・街づくりの学者(故西山卯三京都大学名誉教授)が、地域の持つ文化的資産を評価し、それが由来となって「町ぐるみ博物館」の取り組みに結びつき30年近くになります。

考える会は月1回会議を行い、地域内外から誰でも参加できる外に開かれたものです。運営方針は、①おもしろいことをやる②ええかげんにやる(「ええかげん」の意味は「手抜き」ということではなく、風呂の温度が「ええかげん」と



(修景後の文化住宅)

### 平野郷境界歴史の散歩道

大阪は日本の歴史上、経済・文化の中心地として様々な遺跡や文化遺産が見られます。ここ平野屋界隈も昔ながらの狭い路地の巾に、多くの史跡が見られ、歴史の舞台を感じさせます。



他にも商店街に、平野郷町めぐりマップが掲示されていました。

平野郷地区は1999年大阪市のHOPEゾーン事業(国交省)の対象になり、大阪市と国から補助金を得て9年間に39件の伝統的建物の集景を行ってきました。一方、HOPEゾーンの地域内に高層マンション建設が強行されたことをきっかけに、建築物の高さを制限するための条例制定の運動を展開し、2007年3月市会において、平野郷地区における「建築物の制限に関する条例案」が可決されましたが、これほど広い範囲で建物高さを規制した条例はめずらしいとの事です。

# 党議員団の会派視察(糸満市・宜野湾市・金武町)

## 報告①



宜野湾市役所の屋上から見た普天間飛行場  
(林の向こうにヘリと大型輸送機がみえる)



嘉手納飛行場に駐機中の大型輸送機

米軍ヘリ(普天間飛行場所属)が飛行場に隣接した国際大学に墜落炎上した事故がありました。また、これを機に同飛行場撤去の機運が高まり、日米政府は県民の要望を受け入れる

ポーズを取りつつ、実はアメリカの強い要請を受け、基地の再編強化をめざして米軍キャンプ・シユワープ基地内の辺野古崎へのヘリ基地移転を画策。そして新型の垂直離着陸機「オスプレイ」への機種転換をめざしています。

党議員団は7月23～25日、沖縄の糸満市・宜野湾市・金武町へ行政視察に行つて来ました。「糸満市」では環境教育「EM廃油液で学校のプール掃除を行っていること」、「宜野湾市」では普天間基地の騒音公害など、「金武町」では乳幼児医療費の中学卒業未満までの実施、小規模港の利点などを調査し、各地の米軍基地の実態を見てきました。



宜野湾市の基地対策課の説明によると、「アメリカ国内では滑走路両端の安全区域(クリアゾーン)が十分取つてあるのに、普天間では十分でない」ことを米側の資料をもとに追及してきて成果をあげつつあること、また、市民から基地への苦情を集計し、全て米軍側に通報していることが明らかにされました。

## ジュゴンの海にヘリ基地はいらない!



米軍が立ち入り禁止の看板を設置

住民が米軍の身勝手な境界線の主張を押し返し、命を張ってがんばっています



鉄条網にくくりつけられた寄せ書き(辺野古海岸)

普天間飛行場の移転先である「辺野古」は米軍のキャンプ・シユワープの岬にあります。

サンゴの海を埋め立て、ヘリ基地建設を防護施設が横行しようとした

が、住民の反対で杭一本も打つことが出来ません。

そして、きれいな砂浜に設置された基地の内外を隔てる鉄条網には、訪れた人が平和の願いを書き記したハンカチや寄せ書きがところ狭しとくくりつけられています。



ヘリ基地建設予定地(枠内)周辺にはジュゴンが生息



基地建設強行を監視する「テント村」  
(地元の人が常駐している)

**8月 府営住宅落選者の再募集**

5月の空き家募集で落選された方のみを対象にした再募集が8月に行われます。

詳細や申込用紙は党議員団控室まで

TEL/FAX (871) 5588